

第6章 逸脱行動と友人関係および余暇行動

前章では、青少年が現在在学している自分の学校生活の調査結果を分析してきた。

本章では、自校内の生活だけでなく、青少年の学校外の生活をも含めた友人関係や、学校外での生活、余暇行動について、逸脱行動との関連から考えていく。

通信技術の発達により、比較的安価に、個々のパーソナル携帯メディアを所有することができるようになった。青少年にとっても、多くの仲間が自分専用の携帯電話やPHSを持った現在、友人とのコミュニケーションのスタイルは、従来とは大きな変化が見られる。学校で顔を合わせる友人と一日に何度もメールを送り合ったり、一度も顔を会わせたことのないのに携帯電話のメール送信だけのメル友には悩みを話すことができたりする不思議な現象が、ごく普通のできごととして生じている。

また、生活体験の不足や情報化の進展などから、青少年の友人との付き合い方にも変化が見られ、遊ぶ友人はたくさん欲しいがあまりメンタルな側面まで深入りせず付き合うという閉鎖的なスタイルが、青少年にとって一般的になっているのではないかと感じられる。

第1節 逸脱行動と親しい友人

青少年の学校外の生活を含めた親しい友人の数について検討する。ここでは、「親しい友人」を「何でも話し合える親しい友だち」と規定し、その数を尋ねたものである。

(1) 男女別にみた親しい友人の数

親しい友人の数を男女別にみたものが、表6-1である。親しい友人の数は、男女とも2~3人が最も多いが、女子よりもやや男子の方が「6人以上」の親しい友人を持つ者の比率が高い。また、全体では20人に1人が親しい友人がいないと回答したことに、青少年を取り巻く課題の多さを感じることもできる。

表6-1 親しい友人の数(男女比較) (%) N=2126

	男	女	全体
いない	6.3	4.6	5.5
1人	4.6	5.1	4.9
2~3人	38.2	43.5	40.9
4~5人	26.4	27.4	26.8
6人以上	24.5	19.4	21.9
合計	100.0	100.0	100.0

(2) 大学進学率別に見た親しい友人の数

親しい友人の数を大学進学率別に見たものが、表6-2である。

所属している高校の進学率の如何に関わらず、親しい友人の数は2~3人が最も多い。進学率の最も高いA群の高校生についてみると、「2~3人」の比率は男子よりも女子の方が多いが、「6人以上」は、女子よりも男子の方が多い。なお、親しい友人の数と大学進学率の間には特に相関は見られなかった。

表6-2 親しい友人の数(大学進学率比較) (%) N=2126

	男				女				全体			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A(高)	B	C	D(低)
いない	9.0	4.2	6.1	6.9	3.6	4.5	5.4	2.8	6.9	4.8	6.0	4.9
1人	5.8	4.2	2.2	6.5	4.1	4.5	5.0	6.1	5.2	4.8	3.4	6.2
2~3人	37.4	41.0	39.9	33.3	46.6	44.6	38.6	49.5	40.7	41.8	39.1	41.1
4~5人	23.0	29.0	23.3	29.0	28.6	25.0	30.7	25.5	24.3	28.3	26.7	27.1
6人以上	24.8	21.6	28.5	24.3	17.1	21.4	20.3	16.1	22.9	20.3	24.8	20.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

(3) 学校立地別に見た親しい友人の数

親しい友人の数を学校立地別に見たものが、表6-3である。

学校が都心に立地しているか都心以外に立地しているかに関わらず、親しい友人の数は2~3人が最も多く、また、親しい友人の数と学校立地の間には特に相関は見られなかった。

表6-3 親しい友人の数(学校立地比較) (%) N=2126

	男		女		全体	
	都心	その他	都心	その他	都心	その他
いない	7.3	5.6	3.6	5.0	5.8	5.4
1人	4.8	4.5	4.1	5.6	4.6	5.1
2~3人	37.7	38.6	46.6	42.2	41.5	40.5
4~5人	26.1	26.6	28.6	26.8	27.0	26.7
6人以上	24.1	24.7	17.1	20.4	21.1	22.3
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

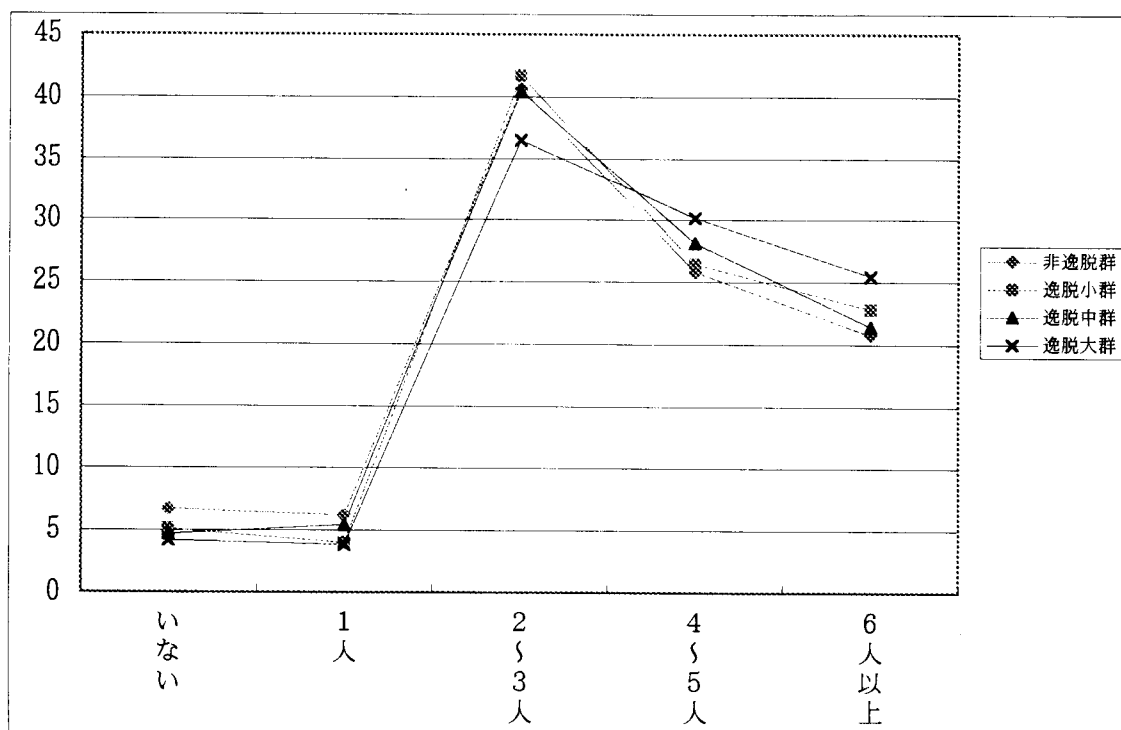
(4) 親しい友人の数と逸脱行動度との関係

親しい友人の数と逸脱行動度を比較したものが、表6-4および図6-1である。表6-4からは、親しい友人を「4人以上」持っている者の比率が、非逸脱群46.5%、逸脱小群49.2%、逸脱中群49.5%、逸脱大群55.5%となっており、逸脱行動度がより高い群ほど親しい友人の数が多い傾向があることが分かる。非行と親しい友人数とが関係していることを窺わせる。

表6-4 親しい友人の数(逸脱行動度比較) (%) N=2126

	非逸脱群	逸脱小群	逸脱中群	逸脱大群
いない	6.7	5.1	4.7	4.2
1人	6.2	4.0	5.4	3.8
2～3人	40.6	41.7	40.4	36.5
4～5人	25.8	26.4	28.1	30.1
6人以上	20.7	22.8	21.4	25.4
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

図6-1 親しい友人の数(逸脱行動度比較) (%) N=2126



第2節 逸脱行動と学校外で一緒に過ごす友人

本節では、具体的にどのようなタイプの友だちと親しく付き合っているかを検討する。「学校外で一緒に過ごす友だち」がいるかどうか、いる場合それはどのような友だちかを尋ねた結果を概観し、さらに付き合っている友だちと逸脱行動の関係を検討してみよう。

(1) 性別に見た「学校外で一緒に過ごす友人」

高校生たちが学校外で一緒に過ごす友人を、男女別に示したものが表6-5である。学校外で一緒に過ごす友人は、「現在在学している学校の友だち」が男子8割、女子9割弱と多く、「他の学校の友だち」も男女とも8割前後と多い。男女とも、学校という枠を越えての交際範囲はあまり広くないようである。その他の友だちとしては、「学校・学校の卒業生（先輩）・塾や予備校・アルバイト先・盛り場以外で知り合った友だち」が男女ともに15%前後と多く、次いで「学校の卒業生（先輩）」と「アルバイト先で知り合った友だち」を挙げた者がそれぞれ1割いる。

男女別に見ると、どのような友だちと一緒に過ごすかは、男女であまり差がないと言えるが、「学校外で過ごす友だちがいない」者は女子よりも男子にやや多いようである。

表6-5 学校外で一緒に過ごす友人(男女別) 複数回答 (%) N=2133

	男	女	全体
1 今の学校の友だち	79.8	87.2	83.6
2 他の学校の友だち	76.0	81.5	79.0
3 学校の卒業生（先輩）	11.7	9.0	10.2
4 同じ塾や予備校で知り合った友だち	4.4	5.6	5.0
5 アルバイト先で知り合った友だち	9.2	11.0	10.2
6 盛り場(ゲームセンターなど)で知り合った友だち	4.2	3.0	3.6
7 1~6以外の友だち	15.5	14.9	15.2
8 学校外で過ごす友だちはいない	4.5	2.5	3.4

(2) 大学進学率別にみた「学校外で一緒に過ごす友人」

学校外で一緒に過ごす友人と大学進学率との比較を示したものが、表6-6である。大学進学率が最も高いA群は他群よりも「同じ塾や予備校で知り合った友だち」と過ごす者が多く、逆に大学進学率が最も低いD群は他群よりも学校関係以外の友だち、つまり「アルバイト先で知り合った友だち」及び「学校・学校の卒業生（先輩）・塾や予備校・アルバイト先・盛り場以外で知り合った友だち」と過ごす者の比率が際立って多く、また「盛り場（ゲームセンターなど）で知り合った友だち」と過ごす者もやや多いことが分かる。それぞれ、学校外における行動の場、そして行動パターンそのものを如実に表した結果と言えるだろう。

表6-6 学校外で一緒に過ごす友人(大学進学率別) 複数回答 (%) N=2133

	男				女				全体			
	A	B	C	D	A	B	C	D	A(高)	B	C	D(低)
1 今の学校の友だち	81.8	81.7	79.4	75.4	86.9	88.1	89.6	83.5	84.2	85.3	84.1	79.4
2 他の学校の友だち	68.9	75.4	84.2	75.9	81.9	79.2	83.7	84.0	75.5	77.6	84.1	80.0
3 学校の卒業生(先輩)	6.7	12.9	13.6	12.9	7.2	8.4	8.4	12.7	6.9	10.3	11.0	12.6
4 同じ塾や予備校で知り合った友だち	8.9	4.2	2.2	2.6	10.0	7.1	2.0	0.9	9.4	5.9	2.1	1.8
5 アルバイト先で知り合った友だち	6.7	6.0	7.9	17.7	10.4	7.6	6.4	23.6	8.5	7.0	7.1	20.6
6 盛り場(ゲームセンターなど)で知り合った友だち	2.7	4.5	3.9	5.6	0.9	2.6	3.0	6.1	1.8	3.4	3.7	5.8
7 1~6以外の友だち	15.1	12.0	12.3	24.1	12.2	13.2	9.4	26.9	13.6	12.8	11.0	25.1
8 学校外で過ごす友だちはいない	6.2	5.1	2.2	4.3	2.7	2.4	3.0	1.9	4.5	3.5	2.5	3.1

(3) 学校立地別に見た「学校外で一緒に過ごす友人」

学校外で一緒に過ごす友人と学校立地との比較を示したものが、表6-7である。学校が都心に立地している群では、「アルバイト先で知り合った友だち」「盛り場(ゲームセンターなど)で知り合った友だち」「学校・学校の卒業生(先輩)・塾や予備校・アルバイト先・盛り場以外で知り合った友だち」と過ごす者が、都心以外に立地している群に比較して多い。ここには、学校の立地環境から付近にアルバイトができる場所や盛り場を有している都心に立地している群の青少年が、それらの場所に出入りし、友人関係が作られていくプロセスが明確に示されている。

表6-7 学校外で一緒に過ごす友人(学校立地別) 複数回答 (%) N=2133

	男		女		全体	
	都心	その他	都心	その他	都心	その他
1 今の学校の友だち	75.4	82.6	85.6	88.0	80.1	85.5
2 他の学校の友だち	76.2	75.9	84.7	80.1	80.3	78.3
3 学校の卒業生(先輩)	11.3	12.0	10.3	8.5	10.6	10.0
4 同じ塾や予備校で知り合った友だち	5.5	3.7	3.2	6.6	4.4	5.3
5 アルバイト先で知り合った友だち	15.5	5.2	20.3	6.9	17.7	6.2
6 盛り場(ゲームセンターなど)で知り合った友だち	6.8	2.6	4.4	2.4	5.7	2.5
7 1~6以外の友だち	19.5	12.9	20.9	12.3	19.9	12.6
8 学校外で過ごす友だちはいない	5.3	4.0	2.1	2.6	3.7	3.3

(4) 「学校外で一緒に過ごす友人」と逸脱行動度の関係

学校外で一緒に過ごす友人と逸脱行動度を比較したものが、表6-8および図6-2である。ここでは、逸脱行動度が高い青少年は、具体的にどのような友人と一緒に過ごしているのかが分かる。

図表からは、逸脱行動度が高い群ほど、「他の学校の友だち」「アルバイト先で知り合った友だち」「学校の卒業生(先輩)」「盛り場(ゲームセンターなど)で知り合った友だち」と知り合い、一緒に過ごしている者が多いことが分かる。これは逸脱行動の誘因が、学校以外、先輩、アルバイト先など多様でより広い範囲から得られていることを明示している。

また、非逸脱群の中に、「学校外で過ごす友だちがない」と回答した青少年が、6%と比較的多く見られることも注目される。

表6-8 学校外で一緒に過ごす友人(逸脱行動度別) 複数回答 (%) N=2133

	非逸脱群	逸脱小群	逸脱中群	逸脱大群
1 今の学校の友だち	80.3	84.9	88.1	83.4
2 他の学校の友だち	73.3	79.4	85.5	87.2
3 学校の卒業生(先輩)	6.5	10.1	11.6	20.4
4 同じ塾や予備校で知り合った友だち	4.2	7.2	2.2	5.1
5 アルバイト先で知り合った友だち	3.5	9.8	16.7	23.4
6 盛り場(ゲームセンターなど)で知り合った友だち	1.6	1.8	6.9	11.1
7 1~6以外の友だち	9.6	15.1	21.1	28.9
8 学校外で過ごす友だちはいない	5.9	3.0	0.0	0.9

図6-2 学校外で一緒に過ごす友人(逸脱行動度比較) 複数回答 (%) N=2133

